

平成 23 年度緑地管理研究会について

公益財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成 23 年度緑地管理研究会は、平成 23 年 10 月 24 日に、平成 23 年度緑地管理関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会の開催に先立ち、浅草ビューホテルで開催されました。

今回の研究会には、鉄道、高速道路、電力会社等ユーザー関係者 15 名、試験場関係者 15 名、農薬会社等関係者 97 名ほか、計 154 名の参集が得られました。

当協会では、水田畦畔、農道等の農耕地周辺や、道路法面、鉄道沿線などの場所を対象に、それぞれの管理目的に応じ、植生を枯らすことなく雑草の伸長を長期間抑制することを目的とした抑草剤の開発・利用に関する試験研究に取り組んでおります。平成 19 年度からは、緑地管理分野における抑草剤を主体とした薬剤の効率的な利用を目的として、鉄道、高速道路、電力会社等ユーザー各社による現地試験が実施され、毎年研究会を開催しております。

研究会では、毎年、ユーザー各社の取り組みが紹介されていますが、今回は、それに加えて農薬会社から抑草剤を主体とした薬剤の上手な使い方等が紹介されました。

今回取り組みを紹介していただいたユーザーは、株式会社ネクスコ東日本エンジニアリング、中日本高速道路株式会社東京支社、西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社、農薬会社

は、シンジェンタジャパン株式会社、株式会社ニチノ緑化、株式会社理研グリーンでした。

ユーザーは、ネクスコ東日本エンジニアリングからは、省管理型芝草としての生育特性を持つ改良型センチピードグラスの導入と管理方法について、中日本高速道路東京支社からは、薬剤による緑地管理におけるこれまでの現地実証試験の経緯とこれまでの実証試験に基づいて改良した薬剤主体の管理方法の実証について、西日本高速道路エンジニアリング九州からは、薬剤抵抗性を有する地被植物のハイビャクシン、テイカカズラを用いて道路緑地管理を省力化する手法について報告されました。

農薬会社は、シンジェンタジャパンからは、景観管理への取り組みとしてモニメントフロアブルの効果と上手な使い方について、ニチノ緑化からはグリーンフィールドによる緑地・植栽地管理の実証試験の紹介と薬剤の作用性等について、理研グリーンからは、ショートキープ液剤の特長と上手な使い方について報告されました。

最後に当協会事務局より、これまで（平成 19～23 年）の緑地管理研究会で報告された有効事例を管理目的別にとりまとめた結果を紹介し、研究会を閉会しました。